1 回生初修外国語・既修者対応プログラム受講者対象

全学副専攻「特別履修」受講申請に関するお知らせ

2026 年 10 月　言語教育センター

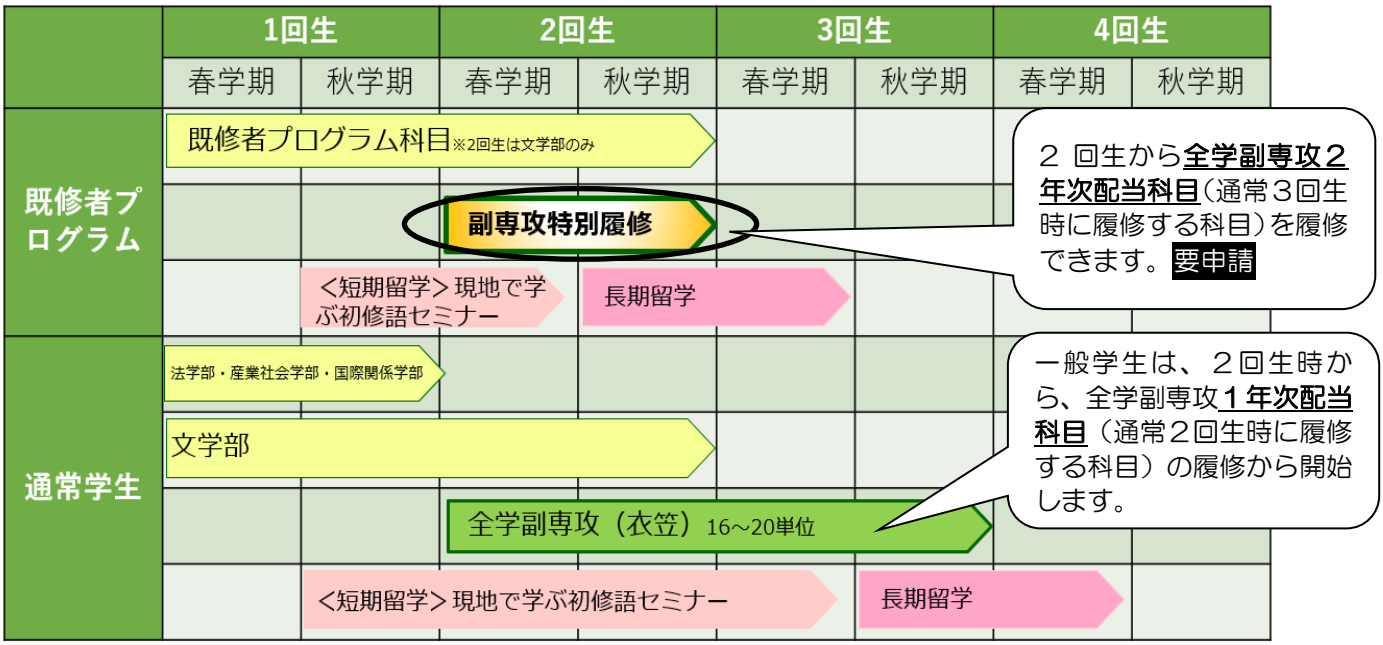
① 全学副専攻「特別履修」とは？

既修者対応プログラムで継続学習した初修外国語をさらにスキルアップしていくための制度で、当プログラム受講者は、当プログラムで履修している言語の全学副専攻 2 年次配当科目（通常は 3 回生時に履修する科目）を、2 回生時から上限8単位以内で「特別履修」することができます。

この既修者対応プログラム受講者のための特別措置が“全学副専攻「特別履修」”です。

“全学副専攻（以下、副専攻）”の科目ですが、「〇〇単位以上必要」というパッケージ履修ではなく、自分の選択で 1 単位から部分履修できます。

＜履修イメージ＞



② 応募期間

＜申請方法＞ 全学副専攻「特別履修」の受講を希望する場合、Campus Web で受講申請をしてください。

＜WEB 申請＞

https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20261005145849354866321

※WEB 申請をすると、「受付完了メール」が学内メールに届きます。「受付完了メール」が届いていなければ、申請完了にはなりません。必ず確認してください。

＜申込期間＞

10 月 26 日（月）12：00～11 月 16 日（月）23：59＜締切厳守＞

＜注意点＞

今回の申請をしなければ 2 回生から全学副専攻特別履修を受講することは出来ません。

③ 結果発表

11 月２０日(金)10:00 に RITSUMEIKAN STUDENT PORTAL の個人通知にて発表

④ 募集から履修開始までのスケジュール

（1） Campus Web で受講申請

↓

（2） 具体的な履修方法について確認

※2027 年 3 月末頃に言語教育センターHP（https://www.ritsumei.ac.jp/gengo/seika-manabi/kisyu.html/）や RITSUMEIKAN STUDENT PORTAL で案内

↓

（3） 受講登録

2027 年 4 月に希望の科目を各自で受講登録

２回生から全学副専攻「外国語コミュニケーションコース」科目（２年次配当科目）を履修可

※自分で科目を選択（上限８単位。８単位未満も可。）。

※（文のみ）2027 年度から既修者科目の上級クラスを（必修科目として）履修する必要がある場合は、既修者科目を優先し、重複しない範囲で全副専攻「特別履修」を受講してください。

↓

（4） 単位認定

「特別履修」で単位取得した科目は、卒業必要単位として認定

※認定分野や、認定分野の上限単位数は学部によって異なるため、学部の履修要項で各自確認してください。

※副専攻の「１６単位以上のパッケージ受講」とは異なるため、修了証は発行されません。

⑤ 注意点

（1）既修者対応プログラム受講者は、既修者プログラムで履修している言語の、全学副専攻「〇〇語コミュニケーションコース」を「16 単位以上のパッケージ受講」として受講することはできません

（2）９単位以上単位取得しても卒業に必要な単位として認定されるのは８単位までです。履修状況を自身で確認してください。

⑥ Q & A

（Q1） 今回申請しなければ、今後全学副専攻「特別履修」を受講できないのですか？

今回申請しなければ次年度の全学副専攻科目の受講はできません。申請した年度の翌年度より、受講を開始することができます。

（来年度の申請受付時期に申請すれば、その翌年度からの受講は可能です。）

（Q2） ２回生からの時間割などの関係上、申請しても履修できるかまだわかりませんが申請してもいいのですか？

申請したからといって必ず受講しなければいけないということではありません。

今回申請しておけば受講資格を得られるので、受講に興味があれば申請してください。

（今回申請し、３回生以上になってから履修することも可能です。）

（Q3） 既修者対応プログラム受講者の先輩で全学副専攻「特別履修」を受講している人は多いですか？

例年、既修者対応プログラムを履修している多くの人が受講申請をし、２回生から他の必修科目などと重複しない範囲で継続学習に励んでいます。

（Q4） 全学副専攻「特別履修」を受講する利点は何ですか？

既修者対応プログラム終了後も、当該語種の外国語運用能力を一層伸ばすために、継続学習ができることです。

（Q5）通常の全学副専攻とどう違うのですか？

通常の全学副専攻「外国語コミュニケーションコース」は、選択した副専攻コースの科目から、１６単位以上を修得した場合に限り、卒業必要単位として認定されます。全学副専攻「特別履修」の場合は、８単位以内で何単位取得した場合でも卒業必要単位として認定されます。
※既修者対応プログラム受講者は、通常の全学副専攻は履修できません。

（Q6）現在履修している外国語が、１つは初修（英語以外）、もう１つは既修です。初修で全学副専攻を、既修で全学副専攻特別履修を両方申請することができますか。

できません。どちらか１つを選んでください。

（Q7）既修で履修している言語以外を全学副専攻特別履修に申請することはできますか。

できません。その場合は全学副専攻外国語コミュニケーションコースに申請をしてください。現在大学で履修中の言語ではない語種で全学副専攻外国語コミュニケーションコースを申請する場合、個別に応募可否の判断が必要となります。詳しくは、全学副専攻（衣笠）外国語コミュニケーションコース募集要項の p.3 をご確認ください。応募可否の相談申請期間締切が 10/27（火）17：00 のためご注意ください。

＜問い合わせ先＞ 言語教育センター（尚学館１階）

TEL：075-465-7878

E-mail：gengo@st.ritsumei.ac.jp



2027 年度　副専攻「特別履修」科目一覧

ドイツ語

1. 科目編成

科目名	開講期間	単位数	配当年次	クラス規模（目安）
（副）専門ドイツ語Ⅴ	春学期	2	2	35 名
（副）専門ドイツ語Ⅵ	秋学期	2	2	35 名
（副）専門ドイツ語Ⅶ	春学期	2	2	35 名
（副）専門ドイツ語Ⅷ	秋学期	2	2	35 名
（副）ドイツ語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25 名
（副）ドイツ語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25 名

2. 科目概要

◆ 専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ（上級ドイツ語）

ドイツ語コミュニケーションコースでは、それぞれ自分に関心のある学び方やテーマで語学力および異文化理解力を磨き、仕上げていくことを奨励しています。「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ」では、たとえば、テレビ放送や新聞などのメディアによるドイツ語を学んだり、Goethe-Zertifikat（B1）などの検定試験をめざしたりすることができます。いずれのクラスもドイツ語検定３級から２級／A2 から B1 の語学力の習得をめざしますが、年度によってクラスのコンテンツが変わることがありますので、シラバスをよく読み、自分に合ったクラスを選んで下さい。

◆ 専門ドイツ語Ⅶ・Ⅷ（ドイツ語圏の文化）

「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ」と同様に、自分の関心に合った学び方やテーマを選択するクラスです。いずれのクラスもテーマはドイツ語圏の文化ですが、芸術、環境、政治、歴史など中心に扱う分野が異なります。語学習得は、ドイツ語検定３級から２級／A2 から B1 のレベルをめざしますが、年度によってコンテンツが変わることがありますので、シラバスをよく読み、自分に合ったクラスを選んで下さい。

◆ ドイツ語コミュニケーションⅢ・Ⅳ

「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」とともに、ドイツ語コミュニケーションコースの総仕上げとして２年次の基礎クラスとなる科目です。簡単な会話、短いスピーチ、個人的な文章や簡単なレポートの書き方などを学びつつ、ドイツ語圏の日常生活や文化に対する理解を深めます。A2 から B1 レベルの総合的な語学力を身につけます。

フランス語

1. 科目編成

科目名	開講期間	単位数	配当年次	クラス規模（目安）
（副）専門フランス語Ⅴ	春学期	2	2	35 名
（副）専門フランス語Ⅵ	秋学期	2	2	35 名
（副）専門フランス語Ⅶ	春学期	2	2	35 名
（副）専門フランス語Ⅷ	秋学期	2	2	35 名
（副）フランス語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25 名
（副）フランス語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25 名

2. 科目概要

◆ 専門フランス語Ⅴ・Ⅵ（仏文法・作文）

相手または第三者に伝えたいと思う内容を簡単な表現を使って書くことができます（①簡単な記述文、簡単な手紙・掲示などを書くことができます）。実用フランス語技能検定試験３級～2 級程度のライティング能力を身につけます。

◆ 専門フランス語Ⅶ・Ⅷ（講読・現代社会）

副専攻２年次の基礎クラスです。新聞や雑誌の比較的理解し易い文章を読み、その内容を理解することができます（①比較的理解し易い記述文、手紙・掲示などを読み、その内容を理解することができます、②比較的理解し易い文章の要点を読み取ることができます）。実用フランス語技能検定試験３級～2 級程度のリーディング能力を身につけます。

◆ フランス語コミュニケーションⅢ・Ⅳ

相手に伝えたいと思う内容を簡単な表現を使って言うことができます（①あいさつ、紹介、対応、伝言、道案内などができます、②簡単なフランス語文の綴りを書き取りできます）。実用フランス語技能検定試験３級～2 級程度のヒアリング・スピーキング・ディクテーション能力を身につけます。

中国語

1. 科目編成

科目名	開講期間	単位数	配当年次	クラス規模（目安）
（副）専門中国語Ⅴ	春学期	2	2	35 名
（副）専門中国語Ⅵ	秋学期	2	2	35 名
（副）専門中国語Ⅶ	春学期	2	2	35 名
（副）専門中国語Ⅷ	秋学期	2	2	35 名
（副）中国語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25 名
（副）中国語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25 名

2. 科目概要

◆ **専門中国語Ⅴ・Ⅵ（作文）**

短文から徐々に長文へと段階的にトレーニングを重ねていくことによって、中国語の作文能力の向上を図ることを目指します。中国語の文を作る力を養成することに伴って、リスニング能力ひいては会話能力も向上させることが可能です。

◆ **専門中国語Ⅶ・Ⅷ（講読）**

本コースの「総まとめ」的な位置づけの科目で、副専攻 2 年次の基礎クラスとなります。さまざまな分野の長文を読むことを通して読解力のさらなる向上を目指します。講読に際しては、必ず音読をすることによって、中国語の漢字のピンインを把握し、これを正しい声調で読む訓練を専門中国語Ⅰ・Ⅱに引き続き行います。

◆ **中国語コミュニケーションⅢ・Ⅳ（会話）**

高度な会話能力を修得することを目指します。テキストの文の朗読、聴き取りの練習、グループでの会話練習などを通して自分の意思や考えを正確に伝えるのに必要な会話の総合力を養成します。

スペイン語

1. 科目編成

科目名	開講期間	単位数	配当年次	クラス規模（目安）
（副）専門スペイン語Ⅴ	春学期	2	2	35 名
（副）専門スペイン語Ⅵ	秋学期	2	2	35 名
（副）専門スペイン語Ⅶ	春学期	2	2	35 名
（副）専門スペイン語Ⅷ	秋学期	2	2	35 名
（副）スペイン語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25 名
（副）スペイン語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25 名

2. 科目概要

◆ 専門スペイン語Ⅴ、Ⅵ（講読・スペイン）

主にスペインに関するテキストの講読を通じ、スペイン語の語彙力、読解力を向上させるとともに、スペインの歴史、文化等に関する知識を習得する。必要に応じ文法的知識の復習、展開に努める。

◆ 専門スペイン語Ⅶ、Ⅷ(講読・ラテンアメリカ)

主にラテンアメリカに関するテキストの講読を通じ、スペイン語の語彙力、読解力を向上させるとともに、ラテンアメリカ諸国の歴史、文化等に関する知識を習得する。必要に応じ文法的知識の復習、展開に努める。

◆ スペイン語コミュニケーションⅢ、Ⅳ（会話、作文）

より複雑な構文の文章が聞いて理解でき、話せることを目標とする。またスペイン語圏の国の政治、経済、社会等についての専門的な知識を得、プレゼンやレポート作成ができるレベルを目指す。

朝鮮語

1. 科目編成

科目名	開講期間	単位数	配当年次	クラス規模（目安）
（副）専門朝鮮語Ⅴ	春学期	2	2	35 名
（副）専門朝鮮語Ⅵ	秋学期	2	2	35 名
（副）専門朝鮮語Ⅶ	春学期	2	2	35 名
（副）専門朝鮮語Ⅷ	秋学期	2	2	35 名
（副）朝鮮語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25 名
（副）朝鮮語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25 名

2. 科目概要

◆ **専門朝鮮語Ⅴ・Ⅵ（現代韓国事情）**

新聞・雑誌などをテキストに、単に読解力を高めるだけではなく、要約文、論点整理、意見表明、問題提起など、文章作成の面での表現力、論理力を高める。

◆ **専門朝鮮語Ⅶ・Ⅷ（実践講読・現代社会）**

現代韓国の政治・社会や対外関係、文化についての学生の自主的な調査・発信と担当教員の朝鮮語によるレクチャーを組み合わせ、朝鮮語の高度で総合的な運用能力の育成をはかる。

◆ **朝鮮語コミュニケーションⅢ・Ⅳ**

ネイティブ教員の指導によってより高度な会話力を身につけるようにする。朝鮮語による E メールの送受信を利用した書く力の養成などを含む、より実践的な朝鮮語運用能力の獲得を目指し、ハングル能力検定試験準２級レベルの力をつけることを目標とする。